

コックピット・ドメイン・コントローラー (CDC) 検証サービス

複雑化する車載システム開発の検証活動を支援

① CDCのインターフェースとなるECUの仮想環境の構築を支援

OTA^{※1}、OSV^{※2}を前提としたシステムの開発において、周辺ECUの仮想化を含め、テスト対象のテスト実行自動化環境の構築支援を行います。

② 製品特性や要求事項を考慮し、適切なテスト内容の導出を支援

自動化の適合性を分析・見極めることで、より効果的で継続性のあるテスト自動化環境を構築します。CDCがアップデートされた場合でも構築した環境のリユースが可能です。

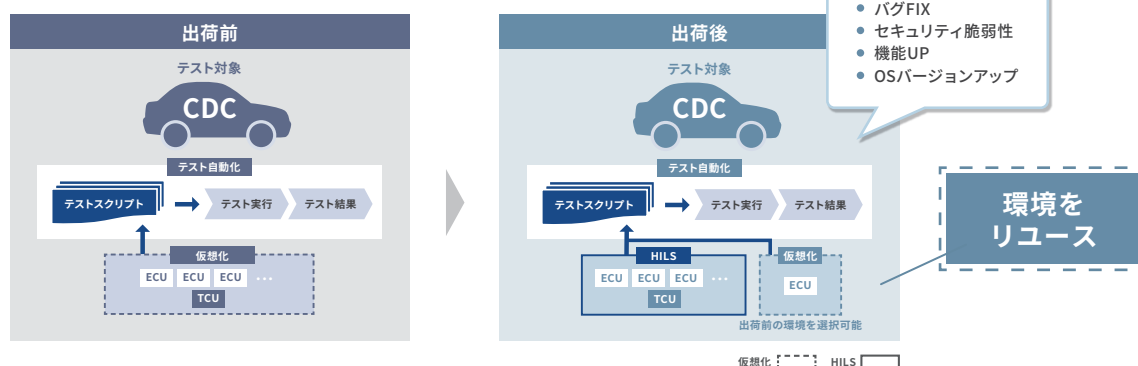
③ 自動車分野における豊富な検証実績

車載テストの自動化に特化した当社独自のプロセスの適応により、短期間で高品質なシステム構築を実現します。

※1 OTA (Over The Air=オーバー・ジ・エア) は、無線通信を経由してデータを送受信することを指し、ソフトウェアの更新などを行う際にこのOTA技術が広く利用されている。

※2 OSV (OS Version UP)

出荷前の環境を出荷後もリユース可能



複雑化する車載システム開発検証の課題

- ・テストパターンの網羅度を上げて品質を高めたい。
- ・テストすべき範囲が多く、手動テストだけでは工数が足りない。
- ・テスト実行の自動化を一部実装しているが継続的な活用ができていない。
- ・長時間稼働を前提とするテストがあり、手動テスト実行は現実的でない。
- ・対応となるサービス（サーバー）アプリケーションの知識が不足している。

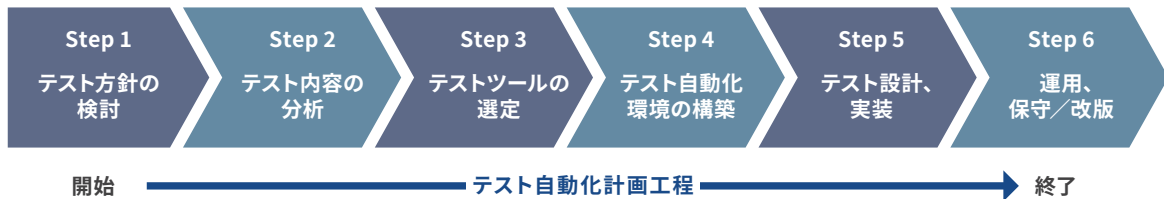
これらのお悩みをベリサーブのサービスが解決いたします



車載CDC検証サービスメニュー

検証業務の経験と実績をもとに、自動化すべき範囲の切り分け、自動化を前提としたテスト項目の設計など、製品評価における自動化、疑似化を総合的にご支援いたします。

テスト自動化工程フロー



ベリサーブが選ばれる理由

失敗パターンを想定した上での効果的な対策を実施

よくある失敗例	対策
自動化範囲選定ミス	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し実施することが想定される対象を選ぶ 変更が少ない箇所を選ぶ データパターンの多いテストを選ぶ
自動化ツール選定ミス	<ul style="list-style-type: none"> テスト自動化ツールの特徴を理解した上で選定する テスト対象にも特徴があるので、PoCで小さく試す
ROIの読み誤り	<ul style="list-style-type: none"> 実装は手動テストの何倍もコストがかかる前提で計画する 実装完了後の保守コストを考慮する
保守性の考慮漏れ	<ul style="list-style-type: none"> 適用範囲拡大に比例して、保守範囲も拡大しないように考慮する あらかじめアーキテクチャーや開発ルールを検討し、必要なドキュメントを残す



お客様のご要望に応じた最適なシステムと環境をご提案

継続的なテスト技術・手法のアップデート

自動テストシステムの効果が薄れてきた際には、新たなテストの観点や分析手法を取り入れることが重要です。ベリサーブは、テスト分析手法と設計技術の研究開発に継続的に取り組んでおり、最新技術の早期獲得を最大の強みとしています。

あらゆるツール・環境への対応と提案

ベクター社製 CANoe/vTESTstudio/VTシステム /VectorCAST のツール、また、Selenium Web Driver、Autify、Magic Pod、Mabl などの、テスト自動化ツールのデファクトスタンダードをはじめ、自社開発ツールによる組み込み分野への対応拡張など、ベリサーブがこれまでテストに携わったあらゆるソフトウェア・ドメインに対し、テスト自動化のご提案が可能です。

加速しよう、未来を。


www.veriserve.co.jp

本 社 東京都千代田区神田三崎町3-1-16 神保町北東急ビル9階
西日本支社 大阪府大阪市西区阿波座1-4-4 野村不動産四ツ橋ビル3階
中 部 支 社 愛知県名古屋市中区泉2-27-14 関電不動産高岳ビル13階

